

被表彰者の功績について

1 兵庫県農業賞

- (1) かきたに こういち 笠谷 浩一（産地の維持発展のための技術開発と複合経営のモデル農家として地域農業に貢献）
昭和31年に就農し、水稻と三田市の特産物「やまのいも」、「くり」、「黒大豆枝豆」、「うど」を組み合わせた複合経営を営む。各品目の積極的な機械化など地域の複合経営農家のモデルとなっている。三田特産のうどでは軟化方法を開発し、地域の生産者へ共有し産地を維持するなど、地域農業の発展に貢献した。
- (2) さかた じゅんこ 坂田 順子（農産物加工組織の設立と特産物を使用した商品開発による地域振興に貢献）
平成15年に地元の営農組合から農産物の加工販売を依頼されたことを機に、加工組織フレッシュピククルを設立した。法人化の必要性を考え、近畿では初となる女性企業グループによる農産物加工組織の株式会社化を実現。その後、農家カフェが併設した加工所を住宅地に設置し地域住民の憩いの場を創出するなど地域振興に貢献した。
- (3) いかり しげる 碓 茂（タマネギの個別経営での機械化体系の樹立により地域農業に貢献）
平成9年から妻の実家の家業であった露地野菜と酪農の複合経営を行い、平成20年から、露地野菜の専作へと経営を転換した。積極的な機械導入によるタマネギの個別経営における機械化体系を樹立。また、地域の人・農地プラン検討委員会の初代会長を務めるなど、地域農業に貢献した。
- (4) いまい ひさよ 今井 ひさ代（地域のつながりを活かした経営と六次産業化による地域振興に貢献）
平成元年に子供がアトピーを患っていたことがきっかけで有機農業を目指し、宍粟市千種町でIターン就農をした。六次産業化を実践し、自社農場の卵を使ったプリンを販売し、西播磨フードセレクションにてグランプリを受賞、地域の多様なつながり・資源を活用した国産100%の自家配合飼料を給餌するなど、地域振興に貢献した。

2 兵庫県林業賞

- (1) はっとり えいじ 服部 鋭治（都市における森林資源の有効活用システムの確立に貢献）
昭和46年から長年にわたり製材業を営んできた。平成26年、公共事業等で発生する伐採木の有効活用を行う「こうべ森の木プロジェクト」が立ち上がると、取扱いの難しい広葉樹の製材を担い、優れた材料を提供してきた。これにより、六甲山材を活用したベンチ等の木製品が公共施設で利用されるなど、都市における森林資源の有効活用に貢献した。
- (2) なか ひでお 仲 秀雄（優れた原木しいたけ生産技術の確立と地域振興に貢献）
昭和53年に父親から「仲きのこ園」を引き継ぎ、自己所有の里山でほだ木を伐りだし、原木しいたけ生産を行ってきた。この中で、通常11～4月に行う植菌作業を6月まで延長する技術を確認し、植菌・収穫作業の一時期集中の回避を可能にした。また、北摂原木しいたけ振興協議会の発足当時から現在まで理事を務めるなど、きのこ生産の振興に貢献した。
- (3) かぶしがいいしやきはらもくざいでん えんちゅうざい まるぼうざいかこうせんたー 株式会社木原木材店（円柱材・丸棒材加工センター）
（高度な丸棒加工技術による県産木材利用の多様化に貢献）
昭和49年に杭丸太、足場丸太の生産、販売を始め、平成15年に自動丸棒加工機を導入し、土木・公園等幅広い用途に間伐小径木の利用を進めてきた。平成28年には、長さ7m、直径60cmまで加工できる機械を導入し、映画のセットや遊具等の多様な製品を全国に供給している。また、商品展示会へも積極的に出展し、木材利用の多様化に貢献した。

3 兵庫県水産賞

(1) 竹内 卓也たけうち たくや（かき養殖業の振興と漁協経営の安定化に貢献）

昭和 58 年からかき養殖業と船びき網漁業に従事し、相生地域の漁場環境に適応したかき養殖方法を確立するとともに、養殖漁場の適正利用に関する指導や養殖かきの PR に取り組むなど、かき養殖業の振興に貢献した。また、相生漁協の理事を務め、漁業経営の健全化と安定化に貢献した。

(2) 松下 時久まつした ときひさ（のり養殖業の振興と漁協経営の安定化に貢献）

昭和 56 年からのり養殖業と小型底びき網漁業に従事し、室津浦地区ののり養殖経営の協業化に成功して淡路島内初の協業体のモデル事例となり、のり養殖業の振興に貢献した。加えて、室津浦地区で初めて他地域の新規就業者を受け入れるなど、後継者の育成にも尽力した。また、室津浦漁協の副組合長を務め、漁協経営の安定化に貢献した。

ほか1名